

2022年6月7日 | 世界フードセーフティーデー

世界フードセーフティーデー 2022へのガイド



より安全な食品で、より健康に

継続する変化を起こすために始めよう

安全が第一です。 私達全員が、食品の消費者です。そして誰もが、食品が安全であることを望んでいます。なぜでしょうか。食品由来の疾病は、中程度から重篤なものまで幅が広く、死に至る場合さえあります。社会的にみると、食品由来の疾病によって学校を欠席したり、会社を欠勤することになり、生産性が低下します。私達が集まり一緒になって、フードセーフティーにとって大切なことを日々の生活に取り入れることができれば、食品由来の疾病を防ぐことや生産性を向上させることができるでしょう。あなたが食品の生産、加工、輸送、貯蔵、販売、購入、調理や提供の何に携わっているのかによらず、みなさん1人1人に役割があります。フードセーフティーは、あなたの手に委ねられています。

フードセーフティーへの意識を高めるために、国際連合は2018年に世界フードセーフティー日を制定しました。フードセーフティーへの意識向上に役立ち、世界フードセーフティー日を記念し行われる取組の数が年々増えており、これは大きな成果です。この傾向が確実に続くように、そして全ての人に2022年のキャンペーンへの参加を呼びかけるために、私達は一緒に活動を続ける必要があります。世界フードセーフティー日へのあなたなりの参加の仕方を考えるために、このガイドを活用してください。

テーマ

より安全な食品で、より健康に

安全な食品は人の健康と幸福に欠かすことができせません。

食品が安全であってこそ、私達はその栄養の恩恵を十分に受けることができ、また安全な食事を分かち合うことの精神的なそして社会的な恩恵を受けることができます。安全な食品は、健康を保証する重要なものの1つです。

安全でない食品は多くの疾病の原因であり、成長・発達障害、微量栄養素の欠乏、非感染性または感染性疾病、精神疾患などのその他の健康ではない状態に関係しています。世界的にみると、毎年10人に1人が食品由来疾病の影響を受けています。しかし、ほぼ全ての食品由来疾病が予防可能であることは良いニュースです。

私達の行動、具体的には私達がどのようにフードシステムを作りフードサプライチェーンを組織するかによって、伝染性のそして有毒なハザード、微生物病原体(細菌、ウイルス、寄生虫)、残留化

学物質、生物毒素、そしてその他の有害で危険な物質が食卓に上ることを防ぐことができます。

より良い健康を実現するために、私達はフードシステムを変換する必要があります。また、その変換を持続させる必要があります。フードシステムの政策立案者、実行者、そして投資家は、健康に関する成果が上がるように、安全な食品の持続可能な生産と消費を増やす方向で、自身の活動を変えていかなければなりません。

誰もが安全で健康的な食事を入手できるようにするためには、農業、食品、貿易、そして産業発展の政策においてフードセーフティーを促進することが必要です。

より良い健康のための体系的な変化は、より安全な食品をもたらすでしょう。また、人類が長期的に発展するために重要な要因であり、持続可能な開発目標(SDGs)達成の前提条件の1つでもあります。

世界フードセーフティーデーへの参加の仕方

世界フードセーフティーデーを記念してあなたがお祝いをするために役立つアイデアをいくつか紹介します。対面イベントの場合には、地域のCOVID-19予防対策に沿って行われることが重要です。オンラインイベントは選択肢の1つですし、遠くから参加することもできます。

ウェビナーを主催しよう

フードセーフティーシステムのキーパーソンを集めて、フードセーフティーにおけるそれぞれの役割を話し合しましょう。議論のあとには質疑応答の機会を設けて、バーチャルで参加した人、または会場で参加した人に向けてちょっとしたヒントや情報を提供しましょう。

みんなでアイデアをシェアしよう！

公開イベントを開催しよう

フードセーフティーへのメッセージとともに、コンサート、お祭りやフェア、試食会や調理実演会などの一般人向けのイベントを開催しましょう。コンサートや実演会は、バーチャルな参加者にとっても魅力的なイベントです。

想像力を豊かに！

キャンペーンをたちあげよう

ソーシャルメディアでつながりましょう。私達が6カ国語で作成したすぐに使えるコミュニケーション資料や、あなたが自分で作ったビデオやパンフレット、ポスターをハッシュタグ

#WorldFoodSafetyDayをつけて投稿することができます。

いいね！やコメントをシェアしよう！

スポーツイベントを開催しよう

フードセーフティーを促すために、みんなで走ったり、歩いたり、ダンスしたりするイベントを企画しましょう。フィットネスやエクササイズは、目的あるコミュニティーへの参加を人に促すための素晴らしい方法です。

位置について、よーい、ドン！

メディアにはたらきかけよう

フードセーフティに関することに意識を向けってもらうために、ラジオ、新聞、そして雑誌を使いましょう。ジャーナリストの人達と、世界フードセーフティーデーの情報や資料をシェアしましょう。そしてより多くの人の参加につながるように、あなたのイベントを彼らに取材してもらえようにはたらきかけましょう。

見出しを飾ろう！

講演会を開催しよう

作物の栽培や、食品への加工、販売、調理に携わっている人達を招いて、彼らがしていることやなぜフードセーフティーが大事なのかについて話をしたり実演したりしてもらいましょう。バーチャルで行うためには、ミーティングやソーシャルメディアのプラットフォーム上でシェアします。

積極的になろう！

みんなの話を集めよう

食品関連事業者、農家、医療従事者、あるいは食品由来疾病に罹患したことがある方のお話をまとめましょう。みんなの経験をシェアすることで、フードセーフティーがどれだけ大事なことなのか理解することができます。みんなの体験談は文章にまとめることも、絵に描くことも、写真に撮ることも、そして歌うことも、ドラマにすることも、記録することもできます。

心で感じよう！

楽しみましょう

アートやゲームにして楽しみましょう。フードセーフティーを学んだり、あなたの知識をシェアしたりすることのできる方法はたくさんあります。対面とオンラインのどちらでもできます。コンテストやクイズをやってみましょう。友達と一緒にドラマを作ったり演じたり、歌や詩を作ったりしましょう。

楽しみをきっかけにしよう！

成功をたたえましょう

国内の様々な分野、例えばホスピタリティの分野に、フードセーフティーに焦点を当てた認証プログラムがあるならば、これまでに達成されたことをたたえましょう。

世界フードセーフティーデーは、その成功をお祝いするための日でもあります！

フードセーフティはみんなの仕事

世界フードセーフティデーのためのこのスローガンは、私達1人1人に、食品を安全に保つための役割があることを思い出させるためのものです。私達は、農場から食卓までのフードチェーンの全体を通じて、フードセーフティを第一に考える必要があります。誰にでもできることがあります！いくつか例を挙げましょう。

政府にできること

多様な分野の協働を促すこと。 地方、国、地域、そして世界規模で、多様な分野の協働を促し、それに関与します。公衆衛生、家畜衛生、農業とその他分野の間での、効果的で透明性の確保された連携は、世界中での安全な食品の入手を確実にします。

健全で安全な食品に公的な支援プログラムの焦点をあわせること。 消費者が安全で健全な食品にたどり着くことができるように、食料援助、学校給食、またその他の公的に運営された食品の配付や販売など、食品の公的調達を全てを設計します。安全な食品を簡単に選択できるようにします。公的支援プログラムの策定は、フードセーフティを進めるための最も効果的で公平な方法の1つです。

強力な政策を立案し、優れたガバナンスを実践すること。 国のフードセーフティシステムを強化するための政策措置と法的な枠組を支援し、フードセーフティ規格の遵守を確実にします。国際連合食糧農業機関(FAO)/世界保健機関(WHO)の食品管理システム評価ツール(FAO/WHO Food Control System Assessment Tool)を使って、国の食品管理システムを評価するとともに、Codex委員会により策定された国際食品規格への適合を確実にするために、定期的な管理を実施します。

食品事業者ができること

フードセーフティへの責任を果たすこと。 フードセーフティの問題に取り組むために利用することができる、いろいろなツールやアプローチがあります。食品の生産、加工、流通、そして小売りに携わる全ての人は、フードセーフティ上のハザードを特定し、評価し、そして管理するための規格への適合を確実にしなければなりません。

フードセーフティカルチャーを推進すること。 従業員、サプライヤー、そしてその他の関係者とともに、フードセーフティカルチャーを育て発展させます。フードセーフティに関する説明会や研修会、ワークショップを定期的開催します。

国際食品規格を遵守すること。 国のまた国際的な食品規格の遵守はフードセーフティを確実にものにし、さらにはその結果として、市場参入の機会を拡大します。食品規格がどのような違いを生み出しているのかを強調することで、その功績を称えましょう。

教育機関や職場でできること

フードセーフティに関する教育を支援すること。 大学、その他の学校や職場では、健康関連の方針に、フードセーフティに関する教育を取り上げるべきです。専門家育成の一環として、フードセーフティに関する教育研修を取り上げることを検討します。

食品の安全な取扱を促すこと。 食堂では、例えば、危害要因分析重要管理点(HACCP)システムや該当する全ての標準作業手順の適用によって、また食品を扱う人への適切な研修の提供によって、フードセーフティのための全ての規制に従っていることを確実にしなければなりません。

家族と一緒に取り組むこと。 毎日の単純な行動を変えることにより食品由来疾病のリスクを低減できることを学び、お互いに知らせあうことができるように、家族をフードセーフティのための活動に誘いましょう。WHOの"食品をより安全にするための5つの鍵"は、ポスターやパンフレット、教育ビデオを作成するために役立つツールです。

消費者にできること

常に最新の情報を入手しフードセーフティを促すこと。 消費者には、変化のきっかけを作る力があります。安全で健全な食事を選ぶことで、あなたは世界の疾病負荷の軽減と持続可能なフードシステムの支援に貢献しています。フードセーフティについて学び#WorldFoodSafetyDayキャンペーンに参加しましょう。

食品の安全な取扱を家庭において実践すること。 WHOの"食品をより安全にするための5つの鍵"(清潔に保つ、生の食品と加熱済み食品とを分ける、よく加熱する、安全な温度に食品を保つ、より安全な水と原材料を使う)を守りましょう。

コミュニケーションのための素材があります

アラビア語、中国語、フランス語、英語、ロシア語、スペイン語のコミュニケーション資料がありますので、ご自身でまた配付してご使用ください。

 **世界フードセーフティデーウェブサイト**
[www.fao.org/world-food-safety-day]

 **世界フードセーフティデーTrello ボード**
[<https://trello.com/b/ldzjFBJA/world-food-safety-day>]

 **世界フードセーフティデーAsset Bank**
[<https://digital-assets.fao.org/home/action/browseItems?categoryId=136923&categoryId=2>]
ポスターやウェブバナーなどを低解像度版と高解像度版で用意しています。

 昨年¹の報告書もご覧ください。
世界フードセーフティデー2021報告書
[<https://www.fao.org/documents/card/en/c/cb6125en>]

あなたのイベントについてぜひお知らせください

あなたの計画を教えてください。そして写真や動画のリンク、イベントのニュースをシェアしてください。世界フードセーフティデーのウェブサイト内、またFlickr上や世界フードセーフティデー2022報告書に掲載できるように、あなたの活動内容を忘れずに記録してください。

お問い合わせ

World-Food-Safety-Day@fao.org

foodsafety@who.int

フォローしてください

[#WorldFoodSafetyDay](https://twitter.com/WorldFoodSafetyDay)

[@FAOWHOCodex](https://twitter.com/FAOWHOCodex)

[@FAO](https://twitter.com/FAO)

[@WHO](https://twitter.com/WHO)

キーマッセージ

安全でなければ食品ではない

フードセーフティがなければフードセキュリティはありません。食品は安全であってこそ、栄養上の必要を満たし、大人が活動的で健康的な生活を送るために、また子供が成長し発達するために役立ちます。

フードセーフティは健康に直接影響する

安全な食品により、栄養の摂取、また人類の長期発展やSDGsの達成が可能になります。食品の適切な取扱と教育によって、食品由来疾病の大部分を防ぐことができます。

誰もがリスクマネージャー

人は誰も、毎日行う選択の一部として、フードセーフティ上のリスクを評価しています。このような選択は個人により、また家族や地域社会、企業、政府により集団として行われています。

フードセーフティは科学に基づく

通常、消費者は食品の見た目や匂いから安全であるかそうでないかを言うことができません。しかし科学者は安全でない食品を見つけるための試験やツールを開発しています。食品科学者、微生物学者、獣医師、医師、毒性学者等は、例えば、食品を安全にするためにはどのような生産、加工、取扱や調理が必要なのかを助言します。フードチェーンを通じて安全のための取組が実施された場合に、食品は安全になります。

協働強化でフードセーフティを向上

フードセーフティへの責任を共有するためには、世界、地域、国、地方で、私達全員に影響する問題と一緒に取り組む必要があります。現在そして未来において、持続可能な方法で、世界中で安全な食品を確実に手に入れることができるようにするためには、地域社会や企業、政府の中の分野を超えて、さらには国境を超えて協働することが不可欠です。

今日のフードセーフティへの投資が将来の利益につながる

安全な食品の生産は、市場参入を可能にし生産性を向上させることで、経済的な機会を拡大させます。逆に、安全でないあるいは汚染された食品は、取引の拒否、経済的な損失、またフードロスや廃棄につながります。ですから、サプライチェーンに沿った優良な取組は環境的なダメージを最小化すること、またより多くの農産物の維持に役立つことによって、持続可能性を向上させることができます。

COVID-19は食品を介して伝染しませんが、パンデミックの影響によりアグリフードシステムは混乱し、事前に計画しておくことの重要性を私達に示しました。消費者は、安全な食品の入手を常に信じていることができなければならないので、次に来るかも知れないパンデミックへの備えの一部として、政府はフードサプライチェーンの混乱を最小にすることを優先すべきです。今回の経験を今後活かすために、私達は部門や分野そして国境を越えて協働する必要があります。

私達みんなが協働することで初めて、より良い健康のために、食品をより安全にすることができます。



事実と数字に基づく情報

世界では毎年、**10人に1人**が汚染された食品が原因で病気になっています。その影響はあらゆる国に及びます。

公衆衛生への**食品由来疾病による負担**の程度は、マラリアやHIV/AIDSに匹敵します。

200を超える疾病が、細菌、ウイルス、寄生虫あるいは重金属のような化学物質によって汚染された食品を食べることで引き起こされています。

フードチェーンを通じて、家畜と人との直接接触あるいは環境を介して、**薬剤耐性微生物**は伝染する可能性があります。薬剤耐性微生物の感染が原因となり、世界では毎年、70万人が死亡していると推定されています。

食品由来寄生虫疾病により、急性及び慢性両方の健康障害が引き起こされる可能性があります。**11の主要な寄生虫疾病による患者数は1年あたり4,840万人**と推定されており、そのうちの48パーセントが食品を介して伝染しています。

5歳未満の子供は、安全でない食品の消費による栄養失調や死亡のリスクがより高く、食品由来疾病負荷の40パーセントを占めています。**安全でない食品**が引き起こす下痢によって**6人に1人が死亡**しており、この年齢層の主な死因となっています。

安全で栄養価の高い食品は、成人の生活において学業成績や仕事の生産性を上げるのと同じように、知的なそして肉体的な可能性を改善させることにより**子供の成長と発達に利益**をもたらします。

禁忌事項がなければ、生後6ヶ月間は**母乳だけで赤ん坊を育てること**が最も安全です。

安全な食品の生産は、**フードロスと廃棄を減らし、地球に恩恵**をもたらします。

安全な食品は、**生産性の向上**、国内食品市場の拡大、そして安定した食品輸出と貿易によって、経済に利益をもたらします。保健医療制度への負担も軽減します。

食品の安全性は、家畜や作物、そしてそれらが生産される環境の衛生状態の影響を受けます。フードセーフティを対象とした**総合的なワンヘルスアプローチの採用**は、より良いフードセーフティシステムをもたらすでしょう。

188カ国と1機関(欧州連合)が、フードセーフティと食品品質に関連する全ての分野における科学に基づく勧告である**Codex食品規格**への取り決めを交わしています。このことが、食品が安全であることを確実にし、貿易を可能にしています。

フードセーフティは**SDGs**の達成に貢献するものであり、実に様々な分野との関わりを持っています。



一緒にお祝いしましょう

世界フードセーフティデーは、食品に由来するリスクの予防、検出、そして管理に役立たせるための注意と行動の喚起を目的とした1年に1度の記念日です。このガイドには、第4回世界フードセーフティデーに関する情報が掲載されています。2022年の6月7日(またその頃)に、世界フードセーフティデーを一緒にお祝いしましょう。

世界フードセーフティデー 2022



より安全な食品で、より健康に

本文書は、国際連合食糧農業機関(FAO)及び世界保健機関(WHO)により出版された“A GUIDE TO WORLD FOOD SAFETY DAY 2022-Safer food, better health”を、厚生労働省の研究事業*の一環として日本語に翻訳したものである。原文と翻訳に相違がある場合は、原文が優先される。

*令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「食品行政における国際整合性の確保と食品分野の国際動向に関する研究」(研究代表者：渡邊敬浩)

To let us know about your event or ask a question, email us at
World-Food-Safety-Day@fao.org

www.fao.org/world-food-safety-day

www.who.int/world-food-safety-day

#WorldFoodSafetyDay

WHO/HEP/NFS/AFS/2022.1
© FAO and WHO, 2022

Some rights reserved. This work is available
under a CC BY-NC-SA 3.0 IGO licence



CB8661EN/1/02.22